

液肥発酵, 塩分分解,
有機物発酵, 土壌改良

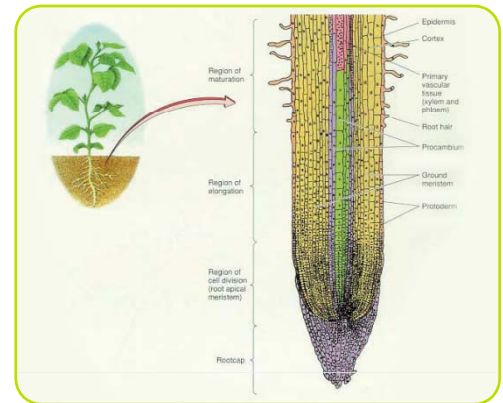
08-ユギ-3-044、土壌改良および作物生育用の資材



包装単位 5kg, 2kg

FM(エフエム)の特徴

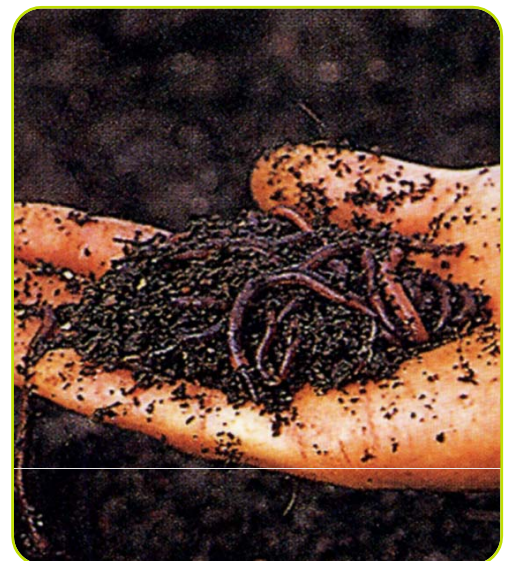
FMは、酵母乳酸菌複合発酵菌剤で、土壌の改良を行い、作物を健康に育ててくれます。



FM - 環境にやさしい農産物生産に必須製品！

生きて呼吸する土を育てるか。
死んでいる土の中に、堆肥や肥料、農薬ばかり使うのか。

環境にやさしい有機農産物FM(エフエム)は、乳酸菌酵母複合菌剤として、環境にやさしい農資材の使用基準に適した資材だけを使い、有機物を低温でじっくり熟成させてまるでキムチを作るように、または、サイレージを発酵させるように、有機物の力価を酸化・分解させない状態でそのまま完熟・保存させます。さらに、消耗型分解から養分蓄積型合成により高栄養合成の有機態菌体を増加させて、土壌内での病原菌の抑制、土を団粒構造化することで、土壌の深層まで活性化させながら、健康できれいな土壌を作り上げる特殊菌剤です。特に、土壌有機物の発酵を促進させ、環境にやさしい土壌改良および作物生育を促します。



FM粒剤 の処理後、土壌の中にミミズが急増

FMの使用方法

使用時期：作物への定植前の散布および予定地への散布

- 予定地に堆肥を施した後に、朝・夜と200～300坪あたりにFM2kg製品では2～3袋(4～6kg)、5kg製品では1～2袋(5～10kg)を施すすぐに耕します。(雨の降る前や雨上がりの後など、十分な水分を含んでいるときに散布した方がより効果的です)
- 広く散布するときは、別途の増量剤と混ぜて施したり、米ぬかなどとの1次培養をしてから使用してもいいです。

ハウスの塩類集積の解消および連作障害になっている土壌を解する処理方法

- 堆肥または肥料などを施した後、150～300坪あたりにFM2kg製品では2～3袋(4～6kg)、5kg製品では1～2袋(5～10kg)を満遍なく施してから深く耕した後、湿っぽくなる程度に水分を与えます。
- ハウスのドアを閉めて地温を高めた後、定植します。
- 生の堆肥の場合 - 冬:3週後(地温15℃程度)
春・秋:2週後(地温20～25℃程度)
夏:45日(地温25℃以上)を経てから定植します。

FM使用時の注意事項

- 予定地およびハウス土壌の改良を行うときでの使用は、主に高温期(6～8月)に使うので、**FM**の散布は朝と夜にしてすぐに耕してください。
- **FM**は土壤水分が充分でなければ、菌の繁殖はうまくいきません。
- 石灰質、殺菌剤などはFMの使用前後5日間は避けてください。
- **FM**を施すときは、坪当たりどれ位使用するのかは、そう重要なことではありません。できれば、多く使用するのがいいですが、目安になれる密度として、2kg製品では2～3袋(4～6kg)、5kg製品では1～2袋(5～10kg)と、300坪に設定したので、参考にしてください。

堆肥などの有機物の発酵方法

- 発酵堆肥を作る場合に、堆肥の窒素および繊維質(炭素)の比をうまく調節して、水分率60～70%程度、20℃以上の温度にすると、よく発酵します。
- 条件を備えた、有機物(堆肥)5～10トン当たりFM2kg製品では2～3袋(4～6kg)、5kg製品では1～2袋(5～10kg)を万遍なく施して酵菌が繁殖しやすい状態にします。
- 通性嫌忌性細菌で、耕したりもし耕さなくてもよく発酵・熟成されて良質の堆肥を発酵させることができます。

液肥発酵、塩分分解、
有機物発酵、土壌改良

08-ユギ-3-043, 土壌改良および作物生育用の資材



FMは、酵母乳酸菌複合発酵菌剤で、土壌の改良を行い、作物を健やかに育ててくれます。

FMは環境にやさしい農資材の使用基準に適した資材だけを使い、化学的な要素が全くない完全な天然商品で、土壌有機物の発酵を促進させ、土壌改良および作物生育を促します。育苗床に水1マス当たりFM(エフエム)50ccの葉面散布を行うと、苗の健康な生育を助け、定植後の初水揚げのときにFM1ℓを水20マスに薄めて灌注すると、発根しやすい土壌環境を作ってくれます。

また、肥料や他の栄養剤を施したり散布時に混用すると、乳酸菌と酵母菌がその肥料や栄養剤の効果を極大化させるとともに、各種の障害や事故を未然に防止してくれます。連作や塩類集積によって疲れた土壌を回復し、環境にやさしい農産物の生産と、健康な土壌作りのために、これからはFMを選択してください。

包装単位 1ℓ



ソウル大学校 白菜試験栽培



FM: 7日間隔で23回施肥

FM(エフエム)の特徴

FMは、乳酸菌と酵母菌で構成されている発酵専門製品で、発酵のときにいつ、どこでも(発酵液肥、発酵堆肥、腐敗防止)使用できる製品として、根の周りへの有機物と無機化学肥料成分を強力な有機酸に可溶化させて病原菌を抑制して塩類を分解します。

FM(エフエム)の使用法

全面施肥		葉面施肥	
施設栽培	<ul style="list-style-type: none"> 150坪当たり1ℓ使用 希釈倍数200倍 10日単位に施肥 	育苗生育初期	<ul style="list-style-type: none"> 7~10日間隔に施肥 希釈倍数500倍(水25マスに1ℓ希釈)
路地栽培	<ul style="list-style-type: none"> 300坪当たり2ℓ使用 希釈倍数200倍 2週単位の施肥 	生育中期以後	<ul style="list-style-type: none"> 7日間隔に施肥 希釈倍数500倍(水25マスに1ℓ希釈)
活着促進	<ul style="list-style-type: none"> 作物定植後の水揚げのとき、水25マスに1ℓを希釈後株への灌注は、発根促進と病気防止に優れた効果発揮 		